

今、大切にしたいこと

尾形 節子

最近保育学界隈では「実践即研究」とか「実践的研究者」とかいった言葉が叫ばれているように思われますが、これって、「言うは易し、行うは難し」の典型という感じです。今の私にとって。実のところ「実践」だけでも「研究」だけでも荷が重くて耐え難いように、理想としては「実践的研究者」などと感じていく自分自身を整理しようと、二年間の研修を利用し

て、いわゆる学際的研究に取り組みました。そこで多くのことを学んだのですが、どうしても学際的研究の土台に乗りにくかった、私自身の気持ちの動き・感じたことなどをやはり大切にしたい、そんな思いで、

『家庭と幼稚園のコミュニケーションの充実』、『保護者と保育者のコミュニケーションの充実』ということに関して、何かご提案がありましたら、お知らせください。

「大きい」

という自由記述回答欄^{*}に寄せられた意見を引用しながら、「今、大切にしたいこと」を書いていきたいと思えます。とにかく雑多な日常の中の自分自身をどうにかして整理することで、せめて「実践的研究者」としての基盤としたいと考えたからです。いろいろな意見があり、その一つ一つに、本当に考えさせられました。一番心に響いたものをまず引用したいと思います。

☆子供に合わせるだけじゃなく、わるいところはなおして、いいところはほめて下さい。家族とか親に関係なく子供だけを見てほしいです。(D幼稚園保護者)

これは、論文においては類型化しきれず「その他」としたものです。でも、いろいろな保護者の方が、いつもではないにしろ、ちらっと頭をかすめることのように思われ、心に残りました。保育者と保護者の重点

のおき方は、子どもたちとのちょっとしたかかわりです。さえも、いつも一致しているとは限りません。もちろん、一致していることは是非についてだって、その時々、状況に応じて変わります。また、たとえば言葉にすると同じでも、実際に行われることは全く違って見えることもあります。一人の子どもの「わるいところ」や「いいところ」のとらえ方、「なおし」方や「ほめ」方は、人によって違います。そのおおもとの願いは一緒だったりすることもありますが、「子ども」の現状に則すこと、「子どもにあわせる」こと、「子どもにながされること」などは同じように見えることでもあります。何かがちよっとずつ違います。子どもを育て、ともに育つにあたって、今、コミュニケーションという切り口がとても大切なことのように思われるのです。

たとえば、私の勤めている幼稚園では、保育者と保護者は子どもの送り迎えを介してほぼ毎日出会うわけ

ですが、それぞれの感じていることについてじっくり話し合う時間的ゆとりを、私はなかなか作れませんでした。それでも、「ともに育て、育ちあっていくこと」は、幼稚園にかかわっている者の大きな願いであり、それを実践という形にしていくことの意義を感じないことはありません。それは、非常に個人的な思いなのでしょうか。そういえば、質問紙調査をしようと思ったそもそもの動機はそれだったように思われます。そこで、自分の感じたままに自由記述回答を並べてみようと思います。

結構いろんな人がコミュニケーションを

必要と感じているんだ

☆いろいろな悩みを相談でき、プライバシーも守ってくれる人が、幼稚園か近くにいてくれたら、と思えます。母親の精神状態がよくないと、子どもも不幸です。自分で、なんとかできる時はよいのですが、そう

でない時、助けてくれる人がいてくれたら、と思えます。
(B 幼稚園保護者)

☆多人数で苦勞していますが、あきらめないようにしなければならぬと思います。今、話せる相手、母親自身が受けとめられる相手を求めている人が多いと感じます。節度などの固定観念を時に全くくずしてみることが大事だと思います。
(R 幼稚園保育者)

☆一学級の幼児数が増えてくると、やはり、保護者とのコミュニケーションを取る時間が限られてしまうことが多く、一人一人の良さを伝えることが制限されてしまう。近年、保護者側も子育てに不安が大きく、保育者と一対一の関係をとりたいがる傾向があり、相談にのる時間も制限されてしまうことが多い。国全体が、幼児も保護者も保育者も共に育ちにあえる関係がとれるような場になるように願っている(保育者側のゆとり、時間が必要)。
(C 幼稚園保育者)

☆先生方とは、何かと相談にのって頂いたり、お声を

掛けて頂いております。子どもの園での様子は、なかなか知れませんので、つまずいている時はすぐに、先生方とお話することになっています。そのことによつて、先生方も、子供のサインに気づいて下さったりして、子供の気持ちを聞いて不安を取りのぞいて下さっています。ただ、問題をおこす相手の子供には、(親)には、何も言っていないません。つい、二年間のつきあいもあると思うと、がまんしますが、その分気が重く、親同士のコミュニケーションを充実させようという気には、なりません。むずかしいです。

(A 幼稚園保護者)

どんなコミュニケーションが

必要とされているのかな

☆保護者に対し一方的な感覚を話してゐる様に思う。私の意見も尊重しようとする姿が見えないし物事を真剣に対応する人間性豊かなところに欠けていると思いま

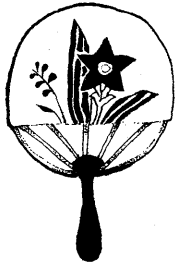
す。事なかれ主義なようにみうけられます。

(D 幼稚園保護者)

☆実際問題があつても、幼稚園(保育者)に相談する前に友だちに相談して、幼稚園の方にはあまり話をした事がありません。

(A 幼稚園保護者)

☆園内での子供の様子は全くわかりません。うるささがられそうで、あまり聴き出すこともしていません。時々先生から今日こんなことがありましたと聴く程度です。知り合いの通う保育園では、参観日を特に決めないで、好きな時に自由に参観できるといふことです。本当のところ、もっと園内の情報を知りたいで



す。参観日の畏った様子ではなく、普段の子供達を見たいです。

(B 幼稚園保護者)

☆保護者と保育者のコミュニケーションがある程度できていると家庭と幼稚園のコミュニケーションも円滑にいくと思う。お互いが歩みより子供の成長を考え、人間性も培われるようにすると幼児が、それぞれに大きく成長すると思います。「根」の部分をしっかり育てれば良いと思います。

(E 幼稚園保護者)

☆家庭にしかできないこと、幼稚園でしかできないことがそれぞれあると思うのでコミュニケーションを充実することは必要であると考え。又、保護者の考えと保育者の考えが違っていると子供もまよってしまうので、そのぶん充分コミュニケーションをとっておくべきだ。

(C 幼稚園保護者)

どんな工夫をしているのかな

☆保育者はまず保護者の気持ち、話を聞く姿勢をもつ

ように努力している。

(A 幼稚園保育者)

☆保護者とのコミュニケーションをとる時について、保育者としての自分の思いをのべたり、伝えることばかりをしてしまったりするけれど、まず、保護者の思いに耳をかたむけることのできる保育者になることが大事とおもいます。しゃべり上手より聞き上手だと思います。

(S 幼稚園保育者)

☆保育後、園庭に出て顔を見せるようにし、保護者からの応答に応じられる時間をとるようにしている。

(N 幼稚園保育者)

☆「さようなら」をした後、園庭で子供達が遊んでいる間に先生とよく話をします。園庭開放のおかげで、担任の先生や教頭先生と「立ち話」の中で良いコミュニケーションがとれていると思います。

(B 幼稚園保護者)

☆互いに責任を追究し合う関係でなく、社会の子供を親と園が両方から育てていこうとする協力関係にある

ことを伝えていくことが大事だと思う。

(W幼稚園保育者)

☆先生である前に人であることをいつも意識し、保護者の方も思いやりを持つことが大切であると思う。一個の人間として尊重されてる意識がお互いのコミュニケーションを円滑にするのだと思う。

(H幼稚園保護者)

いろいろな人が、いろいろなことを考えて、幼稚園で生活をしている。幼稚園で生活をする人々の同じところ、違うところ、さまざまな側面が、その生活を広げたり深めたりできたらいいな、と思いました。それぞれの方の工夫に学びながら、今現在この幼稚園での私たちにとっての意味を問い直し、それを具体化していく意識や努力をしていきたいと思いました。保護者と保育者の、親と子どもの、先生と子どもの、保育者同士の、親同士の、子ども同士の……いろいろなコミュニ

ニケーションが一方向ではなく、双方向にとれるような幼稚園での生活を大切にしていきたいと思っています。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

*これは、一九九七年九月に「子育て状況における家庭と教育現場とのコミュニケーションの構造―幼稚園教育について―」という研究テーマで実施した質問紙調査対象…東京都の公立幼稚園九園の保護者四九五名、同じく三六園の保育者一〇四名✓において、その全協力者五九九名中一四七名(二五%)の方が回答八保護者協力者四九五名中一二六名(二六%)が回答、保育者協力者一〇四名中二一名(二〇%)が回答✓を寄せてくださった自由記述回答です。